

2.22活動報告会レポート

令和5年3月9日 企画部 総合政策課

1. 開催日時等

- ・日時：令和5年2月22日（水） 15:30～17:30
- ・場所：岐阜市役所6階6-1大会議室

2. 参加者

- ・市長
- ・岐阜市：企画部長、企画部次長兼未来戦略審議監、総合政策課職員、グループメンバー15名、関係課職員
- ・株式会社十六銀行：グループメンバー3名、関係者
- ・岐阜大学：グループメンバー5名、関係者

3. 概要

- ・提案に対する検討結果を関係課から説明し、その後、メンバーからの質疑や意見交換を実施しました。そして、最後に市長から講評をいただきました。

4. 市長からの全体講評

- ・十六銀行、岐阜大学、岐阜市が産官学一体となって、地域の課題について議論する良い機会となった。
- ・今年度の若手PTを非常に高く評価している。それぞれのグループが課題を的確に捉え、それに対する施策を考えられており、良い所を突いていると感じる部分が多く見受けられた。
- ・提案そのものが採用されていなくても令和5年度に実施できる部分もあり、それは今回のメンバーの成果である。
- ・トライ&エラーを繰り返しながら、岐阜市の政策立案を担う責任者となっていただくよう期待しているので、このプロジェクトの経験を活かして、岐阜市政を支えてほしい。

※各グループに対する市長の講評は次ページ以降に掲載

グループ①

テーマ：こどもファースト

<メンバー>

牛木 佐耶果さん (企画部 未来創造研究室)
眞鍋 和裕さん (都市建設部 都市計画課)
加藤 孝広さん (市民病院 病院施設課)
鷺崎 大剛さん (消防本部)
浅川 遼太さん (岐阜大学)
飯沼 周也さん (十六銀行)

<タイトル>

「こどもの‘want’」と「地域」をつなぎ、オール岐阜で「mirai」を育てる
～ 中高生のためのサードプレイスの提案～

<提案の概要>

◆ 青少年会館を活用して、中高生のためのサードプレイスを創出する。

- ① 中高生の“want”を引き出す本音調査（ワークショップ等）
- ② モデル会館を運営するコーディネーターの募集・決定
- ③ 施設（青少年会館）の改修
- ④ 中高生が主体となる、プロジェクトの企画・運営
→全市展開へ



◆ 提案に対する検討結果（社会・青少年教育課）

- ・ ①については、青少年会館の有効活用のヒントになると考えられるため、令和5年度に実施予定（調査方法は検討中）
- ・ ②③④については、①の調査結果を踏まえる必要があることから、中高生の‘want’を見てからゼロ予算でできるものに限り、令和5年度中に事業化の可否を決定したい。

★ 市長講評

- ・ 古くなった施設を改修し、サードプレイスとして活用するアイデアは非常に重要である。また、施設を所管する他部局が連携して施設更新について考えることも重要である。
- ・ 家庭、職場、学校以外のサードプレイスが一か所にあり、世代を超えて同じ場所に集まれることは大切なことである。
- ・ メンバーには、今後、サードプレイス整備の業務に携わるときには今回の経験を大いに生かしてもらいたい。



グループ②

テーマ：ワークダイバーシティ

<メンバー>

林 洋平さん (経済部 食肉地方卸売市場)
西尾 知衣允さん (市民協働推進部 市民活動交流センター)
見廣 篤彦さん (市民協働推進部 ぎふが いこみ事業課)
関谷 英久さん (財政部 税事務推進課)
塚本 満朗さん (岐阜大学)
松波 匡宜さん (十六総合研究所)

<タイトル>

仕事があふれるまち 岐阜

<提案の概要>

◆ 多様な働き方を広めることにより、働きづらさを抱える人々が気兼ねなく働ける環境を整え、全ての人に居場所と出番があるまちにする。

- ① サンデービルディングマーケット等での単発雇用実施による事例増加と、それを活かした広報活動
- ② 岐阜市・民間企業（金融機関等）・応援センターによる企業開拓チームの編成
- ③ 令和7年度開設予定のワークダイバーシティに関するワンストップサービスに、職業紹介機能を盛り込む。



◆ 提案に対する検討結果（障がい福祉課／労働雇用課）

- ・今年度はサンビル事務局業務で単発雇用の受け皿としての可能性を探る。令和5年度は、サンビル事務局での単発雇用に加え、波及効果による企業開拓や超短時間雇用について情報発信を行う。
- ・参加企業に実践的に職務の切り出し方を学んでもらうワークショップを開催し、マッチングできる企業を開拓するとともに、B型事業所と超短時間雇用の並行利用の普及に取り組む。
- ・働きづらさを抱える若者や学生を対象とした就労支援セミナーや、そのような人達の採用・育成に関する企業向け啓発セミナーを実施する。

★ 市長講評

- ・多様な働き方、チャンスをつくりだしていくことが重要であり、この提案は、ワークダイバーシティの中でも私が力を入れている超短時間雇用について研究していただいた。
- ・岐阜市では超短時間雇用を始めたばかりで、まだ伸びしろがある。提案にもあったが、もっと企業の中に入っていくことで、地域の中小企業に準備してもらうことも大事であると思っている。



グループ③

テーマ：寄り添う福祉

<メンバー>

山田 潤一郎さん（福祉部 福祉政策課重層的支援推進室）
浅野 匠海さん（環境部 環境保全課）
松久 大樹さん（まちづくり推進部 公共建築整備課）
横山 滉人さん（基盤整備部 河川課）
稲熊 健太さん（岐阜大学）
青木 真穂さん（岐阜大学）

<タイトル>

支えあいとGMP

<提案の概要>

◆ 支えあいのプラットフォームを構築するとともに、
支えあいを促進するためのポイント制度を創出する。

- ① プラットフォームとして、ポイントの受け渡しができる専用アプリを開発
- ② SNSやインフルエンサー等を活用してプロモーションを実施
- ③ 暮らしの困りごとを解決する相互援助コミュニティを形成



◆ 提案に対する検討結果（福祉政策課重層的支援推進室／市民活動交流センター）

- ・ 既存の生活支援サービスなどを進展させ、地域で支え合いが生まれやすい風土を育む。
- ・ 将来的に、ポイント制導入により事業推進を図る。
- ・ 既存の地域コミュニティアプリを活用した、自発的な「助け合い」の実現を目指し、アプリの魅力向上・PRに協力していく。

★ 市長講評

- ・ 支え合いの仕組みをつくるというのは面白い発想である一方、様々なリスクが考えられるのも事実である。
- ・ 自治会など限られた範囲の中だけにすれば、お互い知っている者同士であり、リスクが下がるのではないか。
- ・ ポイントがあればモチベーションも高まり、感謝のやり取り、相互の支え合いにつながる良い着眼点であり、深掘りできると良い。



グループ④

テーマ：市役所の業務改革

<メンバー>

島塚 真さん（行政部 デジタル戦略課）
加藤 由真さん（ぎふ魅力づくり推進部 市民スポーツ課）
赤塚 隆彦さん（保健衛生部 新型コロナウイルス対策課）
真鍋 充さん（教育委員会 学校安全支援課）
藤井 汰地さん（岐阜大学）
福島 裕大さん（十六銀行）

<タイトル>

市役所の業務改革

<提案の概要>

◆ B P Rを推進するための仕組みを構築し、
確実なB P Rの実行を図る。

- ① 庁内B P Rコンサルティング制度の創出
- ② 組織体制の編成（D X推進室）
- ③ D X人材の育成

市役所の業務改革

4月 赤塚 加藤 福島 藤井 真鍋 島塚

◆ 提案に対する検討結果（デジタル戦略課／行財政改革課）

- ・令和5年度から、DX推進リーダーを対象に、コンサルタントによるBPR研修を実施予定
- ・令和5年度から、DX人材へと育成するための全庁的な体制づくりとして「岐阜市DXリスティングアカデミー事業」を新規に事業化
- ・今年度から実施している「Gifu DX-P」により、行政手続きのオンライン化、業務の効率化や市民サービス向上につながるDXチャレンジを推進しており、今後もデジタル戦略課と行財政改革課が連携し、取り組んでいく。

★ 市長講評

- ・新しい仕組みにする際は、良い部分とそうでない部分が出てくるが、まずはやってみることが大事である。
- ・市役所の業務全体でみると、AI-OCRやRPAで業務の自動化を考えることがDXに繋がる。
- ・限られた財政、マンパワーの中で課題は増えており、その課題に向き合える時間と労力を確保することが業務改革の行き着くべき所でないかと考えており、皆さんと共有できたことはとても良いことである。

